



URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/~wadayama-sn/>

『特別支援学校ってどんな場所なの?どんなことを勉強しているの?』

今号では、上の疑問について、本校の取り組みを通して、紹介したいと思います。

特別支援学校とは『教育』の場であるので、地域の学校と同じように『授業』があります。音楽や体育、家庭科など…。しかし、地域の学校と違う授業もあります。『自立活動』と『合わせた指導』です。自立活動とは、子どもたちが日常生活や学習場面で困っていることを改善・克服するために必要な知識や技能を学んだり、態度や習慣を身につけたりするための活動です。合わせた指導とは、教科を合わせた内容で学習することです。例えば、理科と社会を合わせたり、そこにさらに家庭科を合わせたりと、様々です。あわせた指導には以下の4つがあります。

- ・遊びの指導…遊びを中心に据えて、関りや意欲、心身の発達を促す学習
- ・作業学習…作業活動を中心に据えて、将来に向けて働く意欲を培う学習
- ・生活単元学習…生活上の目標の達成や、課題の解決をめざして学ぶ学習
- ・日常生活の指導…日常生活の一層の充実をめざして必要なスキルを学ぶ学習

今回は、『自立活動』と『作業学習』の取り組みを紹介します。

また、上記に加えて、特別支援学校では子どもたちが「ホンモノ」を学べる機会である体験学習を大切にしています。今回は、一例として、防災体験プログラムを紹介します。さらに、本校にある寄宿舎についても紹介したいと思います。

『自立活動』



自立活動では、個々の課題や実態に合わせて「コミュニケーション」や「心理的な安定」「身体の動き」など、小グループを作って取り組んでいます。

ここで紹介するのは、自立活動の中のひとつ、和特に在る肢体不自由の子どもたちを中心に行っている「身体の学習」についてです。「身体の学習」は、毎日同じ時間に、学部を超えて小学部、中学部、高等部の子どもたちがプレイルームに集まって行っています。

身体の硬いところをゆるめるリラクセーションや、バランスをとりやすくする練習をしています。

『作業学習』

高等部では、毎年3学期の参観日に作業学習の授業の一環として「販売学習」を行っています。販売学習では、作業学習で製作した製品を児童生徒や保護者、学校職員に販売しています。販売学習は、就労への意欲を高めたり、自分の役割を果たすことで自信や責任感を養ったりすることを目的として行っています。

今年度は、生徒全員で協力して、製品の販売コーナーとわとくカフェコーナーの2つを運営しました。生徒たちは、1学期から時間をかけて製作してきた製品をたくさんのお客様に購入していただいたり、コーヒーやジュースを飲んでいただいたりして、充実感や達成感を得ることができた様子でした。

毎月1回、校外(マックスバリュ養父店、イオン和田山店)でのわとくカフェの営業の際にも、販売コーナーを設けていますので、見かけられた際には、是非お立ちください。





『体験学習』

災害を自分事として考えよう
～防災体験プログラム～



1月12日(金)に令和5年度防災体験プログラムを開催しました。今年度も昨年度に引き続き保護者の方やコミュニティスクールの方に協力をしていただきました。ありがとうございます。児童生徒が体験を通じて防災について学び、自分の命を守るため主体的に行動する力を育みたいと考えております。これを実現するために今年度は企業や市役所などにも協力を仰ぎ様々な体験ブースを用意しました。昼食は高等部の生徒が家庭科の授業で考えたメニューを厨房で作ってもらいました。午後は、COZYROOMの笹田氏を講師に招き保護者と職員を対象に講演をしていただきました。

児童生徒をはじめ参加していただいた全員にとって学ぶことが多い貴重な機会となりました。



本校には寄宿舎があります。肢体不自由であることと、遠隔地在住であることが入舎の要件です。3～6年間(小学部からだとしてそれ以上)仲間と「同じ屋根の下」で過ごすことで「生活リズム」が確立し、「社会性(コミュニケーション能力)」が向上し、「一人でできること」が増えていきます。また、人との付き合い方を学び、お互いを尊重し合えるようになっていきます。行事や当番活動等も経験しながら「責任感」や「自主性」といった将来の自立に向けて必要な力も身につけていきます。入舎を決める理由は、家庭事情や我が子の成長を願って、などありますが、「寄宿舎生活が楽しみ」と自ら希望する人もいます。



【コラム】 知っていますか? 『高校通級』

但馬モデルの構築(R4)

どの高等学校においても希望すれば通級による指導が受けられる体制づくり
※但馬地区を4つのエリアで区切り、4つの拠点校が各エリア内の学校をサポート
※但馬地区の高校生を対象としたリーフレットの作成

合同研究会等

地域における小・中・高等学校間の縦の連携と、関係機関との横の連携の定着をめざす



兵庫県では平成30年度から高等学校における通級による指導がスタートしています。中学校で通級による指導を受ける生徒数が年々増加していることや、多様な学びの場を整備する必要があることを受けて制度化されました。発達障害などを対象に通常学級に在籍しながら特性に応じた授業を別途受ける形態をとります。平成30年では県内で9校、対象生徒27人でスタートしましたが、令和5年度では21校、167人となりました。また、令和4年度においては但馬地区を4つのエリアで区切り、4つの拠点校(専門性の高い専任の教員を配置する学校)が各エリア内の県立校をサポートする仕組み(但馬モデル)を構築しました。但馬内の4特別支援学校がそれぞれの拠点校を支える協力校としてサポートしています。



たくさんの本をいただき、ありがとうございました。図書コーナーも充実してきました。古本と言っても新品といってもいいような美品もあり、子どもたちもとても喜んでいます。

ですが、まだ本が足りません。今後も受け付けますので、1冊からでもOKです。

読まなくなった本や、余っている本があれば、寄付していただけないでしょうか。

※本の状態によっては引き取れないこともあります。ご了承下さい。

問い合わせ先 和田山特別支援学校 教頭 柳本



高等部生徒の現場実習先を探しています!

校内での作業学習や、地域での現場実習など「働くことを学ぶ」学習に取り組んでいます。卒業後は自分の力を発揮して、社会参加していくことをめざして頑張っていますので、ご協力よろしくお願いします。

お問い合わせ先：079-674-0214 (#4) Mail: s167097@hyogo-c.ed.jp 進路指導部 西岡敬生